

## 総論

# いまこそ防災・減災を見直す

## 1. 災害を乗り越える事前復興の発想とその重要性・可能性

中林 一樹

## 2. 宅地の未災学

釜井 俊孝

日常の様々な場面において、想像力を広く、深く、持って準備や行動することはとても重要なことの一つです。特に、防災・減災においては、その必要性が顕著になります。例えば、普段の生活の中から常に防災情報を収集して状況を把握しておくこと、自分自身が良く行く場所や居る場所においてどのような危険があるかを考えること、被災が想定される区域や避難場所・経路などを示しているハザードマップを見ること、メディアから発信される防災情報の意味そのものを理解しておくこと、怪我をした時に応急処置の方法を知っておくこと、自宅中の危険そのものを減らしておくことなど、多岐に渡ります。上述した自宅における具体的な対策としては、家具や家電の転倒・移動・衝突・落下を防ぐといった基本的なことはもちろん、住宅火災への備えや停電時の明かりの確保も重要になります。また緊急対応への備えとしては、もしもの時の救助活動に備えたバールやジャッキ、ノコギリ等の道具関係の準備や、自宅付近にある心停止の人を救命する医療機器 AED (Automated External Defibrillator: 自動体外式除細動器) の設置場所の把握などの必要性があるといえます。

しかし、私たちの普段の生活の中で「こうしたこと」を、常に意識して行動する準備に備えていますか?と問われると、返答に窮するのではないのでしょうか。

かの高名なシャーロック・ホームズを生み出したサー・アーサー・コナン・ドイルが、シリーズ第1作目の『緋色の研究』において、シャーロックが「遡及的に推理する」ことの重要性を述べている場面があります。遡及的な推理とは、ある出来事が起こったことから出発して、その結果に至るまでに、どのような前段があったのかということを導く思考の使い方のことを表します。ある「出来事」を「災害」と見た時、今、ここで、災害が起こるとするのであれば、事前にどのようなことをすればよいのかということ、遡及的に考えることができる力は大事なものを護ることにつながります。

総論では、こうした遡及的に考えて行動することの重要性について、多様な観点を提示して述べて頂きました。

本号がいつか必ず来る災害に向けて、日々の生活の中から備えることについて考え、様々な場において行動を起こしていくための一助になれば幸いです。

(本研究所研究員 片上 敏喜)